

氏名	谷岡大輔
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3783 号
学位授与の日付	平成 21 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学 (一) 専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Factors associated with adherence to combination therapy of interferon and ribavirin for patients with chronic hepatitis C: importance of patient's motivation and physician's treatment experience
(C型慢性肝炎患者に対するインターフェロンとリバビリンの併用療法におけるアドヒアランスに関連する因子の検討: 患者の治療意欲と医師の治療経験の重要性)

論文審査委員 教授 加藤 宣之 教授 小出 典男 准教授 猶本 良夫

学位論文内容の要旨

C型慢性肝炎患者に対するインターフェロンとリバビリンの併用療法におけるアドヒアランスの向上は治療効果の向上に重要である。しかし、患者の治療経験や治療施設の違いがアドヒアランスに与える影響は十分に解析されていない。本前向き研究ではインターフェロン初回治療または再治療の患者のアドヒアランスに関連する因子を解析した。対象はC型慢性肝炎患者363名であり、初回治療221名、再治療142名であった。363名の内189名(52%)が80%アドヒアランスを達成した。多変量ロジスティック解析では再治療患者、治療患者数の多い施設での治療、若年、genotype 2、体重当たりのインターフェロン投与量が少ないことが80%アドヒアランスの達成に関与していた。80%アドヒアランスの達成率は再治療患者62%、初回治療患者46%であり、再治療患者で有意($P < 0.01$)に高かった。また治療患者数の多い施設で加療された患者では57%、治療患者数の少ない施設で加療された患者では46%であり、治療患者数の多い施設で加療された患者で有意($P = 0.03$)に高かった。以上より患者の治療意欲と医師の治療経験がアドヒアランスの向上に重要であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究では、C型慢性肝炎患者(363例)に対するインターフェロンとリバビリンの併用療法における初回治療(221例)または再治療(142例)の患者のアドヒアランス(52%の患者が80%アドヒアランスを達成)に関連する因子を解析し、以下のような点を明らかにした。(1)80%アドヒアランスの達成率は再治療患者で有意に高かった。(2)治療患者数の多い施設での治療も有意に80%アドヒアランスを上げる因子であった。(3)若年やC型肝炎ウイルスの遺伝子型2などの関与も明らかになった。

本研究は、C型慢性肝炎の治療におけるアドヒアランスの面からの新しい解析を試み治療成績の向上をめざした点において価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。